

日本学術会議主催 公開シンポジウム

原発事故被災長期避難住民の暮らしをどう再建するか あれから5年半。暮らしと住まいの現状と新たな提言に向けて

日時 2016年 9月 19日(月/敬老の日) 13:00 - 16:00

会場 帝京大学板橋キャンパス 本部棟2F 臨床大講堂

東京都板橋区加賀2-11-1

- JR 埼京線「十条駅」下車、徒歩 10 分
- JR 京浜東北線「王子駅」下車
国際興業バス 6 番のりば 板橋駅行 10 分、
「帝京大学病院」下車

全体司会進行

日本学術会議連携会員、帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授／矢野 栄二

開 会（主催者挨拶） 13:00-13:10

日本学術会議会員、日本学術会議 第1部部長、神奈川大学法学部教授／小森田 秋夫
帝京大学 理事長・学長／沖永 佳史

シンポジウム趣旨説明 13:10-13:20

日本学術会議会員、一橋大学大学院社会学研究科教授／町村 敬志

報 告 13:20-15:00 司会：町村 敬志

I. 原子力災害被災地の復興計画と帰還問題

日本学術会議会員、帝京大学経済学部地域経済学科長／山川 充夫

II. 原発事故後における福島県相双地区住民の健康について

南相馬市立病院内科医／坪倉 正治

III. 帰還と移住の中の原発事故被災者コミュニティ

日本学術会議連携会員、大妻女子大学社会情報学部教授、東北大学名誉教授／吉原 直樹

IV. 原発災害避難住民の「二重の地位」の保障

- 「生活の本拠」選択権と帰還権を保障する法制度の提案 -

日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院法務研究科教授／岡田 正則

質 疑 15:15-15:45 司会：町村 敬志

閉 会（まとめとお礼の言葉） 15:45-16:00

日本学術会議連携会員、原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会委員長、国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー、
フューチャー・アース国際事務局日本ハブ事務局長／春日 文子



福島市内仮設住宅における一室の様子

主催 日本学術会議

- ・東日本大震災復興支援委員会/原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会
- ・社会学委員会/東日本大震災の被害・影響構造と日本社会の再生の道を探る分科会

共催 帝京大学(創立 50 周年記念事業)

後援 福島大学つくしまふくしま未来支援センター

科学研究費基盤研究 S「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」

入 場 無 料

開 場 : 12 時 30 分

定 員 : 400 名(申込不要)